

I 本実践の目的

5年1組の児童に「鯨っ子学習」の4年生時と今年度を比較してどのような変容を感じているかを問うたところ以下のような回答が見られた（【】は言語能力とその育成方法より）。

- ① 文字の大きさや言葉の意味の分かりやすさなど、発表をする際に相手が分かりやすく聞くことができるような工夫を考えた。【明確化】
- ② 課題を解決するために必要な情報は何かを考え、計画を立てて情報を集めた。【方略的能力】
- ③ 整理・分析の時になんでも取り入れていたけれど、何を伝えたらいいのかを考えて捨てるものは捨てて考えることで、整理・分析がうまくできたと思う。【選択する】
- ④ 発表の際に、今回はいろいろな質問に対応できなかったけれど、今回は、けっこう答えることができた。【談話能力】
- ⑤ 必要な内容を要約した。目次を入れて、内容を分かりやすくした。【明確化】
- ⑥ インターネットに頼るのではなく、実際に行ってインタビューをして調べることができた。【方略的能力】
- ⑦ 自分の興味のあることを考えていたので、すぐに課題をもち、探究を進めることができたし、6年生の発表を見て、文字の大きさや色、話し方などを参考にして自分の研究をつくることができた。【方略的能力】
- ⑧ 4年生のときは、仮説、考察を自分の言葉で書くことがなかったが、5年生では、自分の言葉で書き、新たな疑問までもつことができた。【方略的能力】

上記の①～⑧の変容は、多くの児童が共通して感じている。このような変容の実感と今年度の取り組みがどのように関係しているのか、本稿で明らかにしたい。

昨年度の研究成果と今後の展望として以下のようなものがある。

児童が各教科で学んだことを生かしているという実感がもてるようにしていきたい。

そこで、今年度は、①～⑧の変容を以下の実践を通して示していく。

個人研究の中で、各教科の学びを意識できるように、学びを可視化する「ラーニングマップ」の活用をした「鯨っ子学習」を行う。

1 単元の目標（児童の姿）

- ア 共に活動を行う他者から評価されたり、自己評価をしたりすることができる。【読解力の側面】
- イ 立場・物事を正当化することができる。【創造的思考の側面】
- ウ 聞き手の状況を捉えながら、他者に思いや考えを論理的に伝えることができる。【他者とのコミュニケーションの側面】

2 単元の計画（令和4年10月～12月実施）

昨年度と同様の「鯨っ子学習」の流れの中で、ラーニングマップを活用していく（図1）。

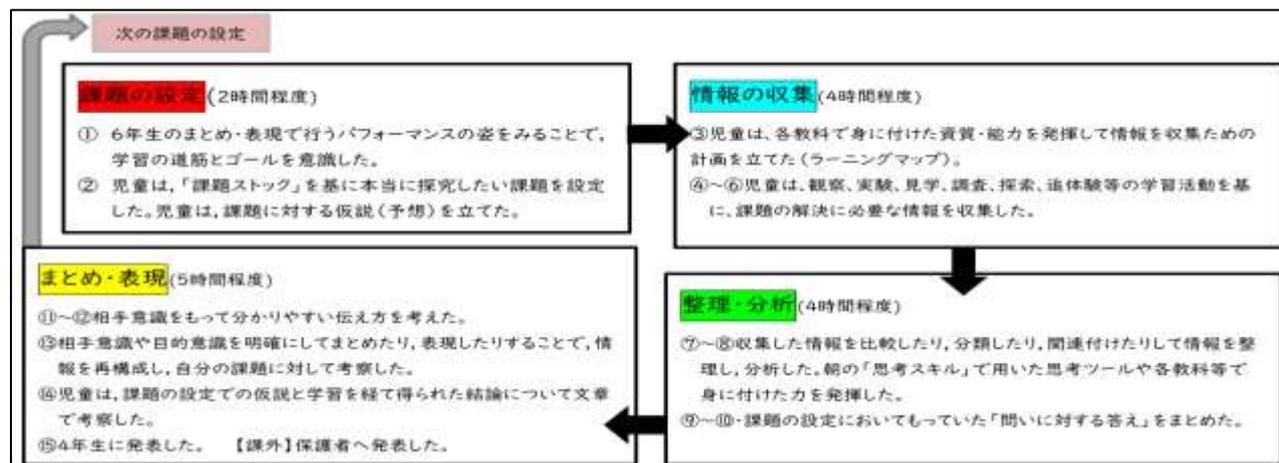


図1 単元の計画

ラーニングマップに関しては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のそれぞれの探究過程ごとに追記していく機会を設け、児童が各教科の学びを意識しながら学習を進めていくことができるようにした（図2）。



図2 単元終了時の本学級児童のラーニングマップ一覧

「鯨っ子学習」において各教科の学びとのつながりをラーニングマップに記している児童の中で、次の児童の姿に着目する。

- ㊦ 4年時の「鯨っ子学習」から質的な変容を実感している。
- ㊧ ラーニングマップに記した各教科の学びを発揮し、そのよさを実感している。

3 抽出児のプロフィール

4年時の「鯨っ子学習」からそれぞれ異なる困り感をもっている児童3名を抽出していく。

A児	B児	C児
たくさんの情報を集めることができても、必要な情報を整理・分析することができず、発表が多くなる。	正確な情報を集めて、まとめ・表現ができるようになりたい。見やすい字体やデザインで伝えたい。	説明をする際に、たくさんの文字や言葉で説明してしまう。

II 「アカデミックライティング」指導における単元の展開と抽出児の様子

1 「課題の設定」の場面における抽出児の様子

図3は、A児の単元終了時のラーニングマップである。「海の中の環境問題」というテーマのもと「海の中の環境問題の現状はどうになっているのか」という課題を設定している。自分がどのようなことに興味をもっているのかを「課題ストック」のノートに記入しておいたことが課題の設定においては有効であったことが分かる。B児(次頁図4)とC児(次頁図5)においても同様である。課題の設定にお

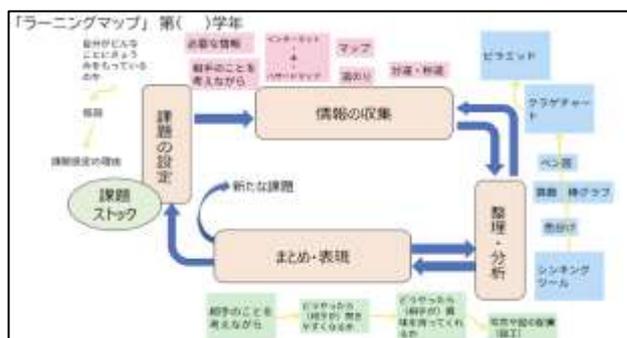


図3 A児のラーニングマップ

いては、各教科の学びを発揮するというよりも自身の興味関心が大きく関わっている。B児の課題は、「世界の国旗には、どんな意味が込められているのか」である。C児は、「家の周りの生き物について。その生き物はどうやって来たのか」である。これらも、「課題ストック」が基になっている。

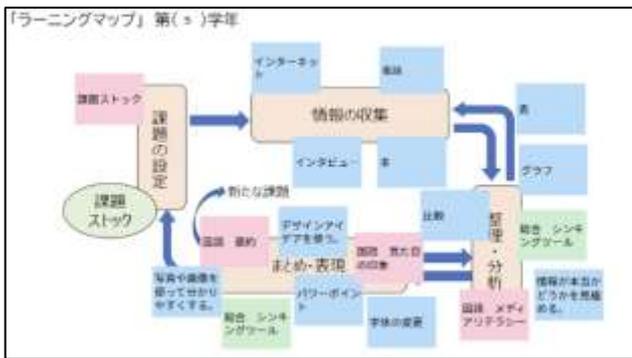


図4 B児のラーニングマップ

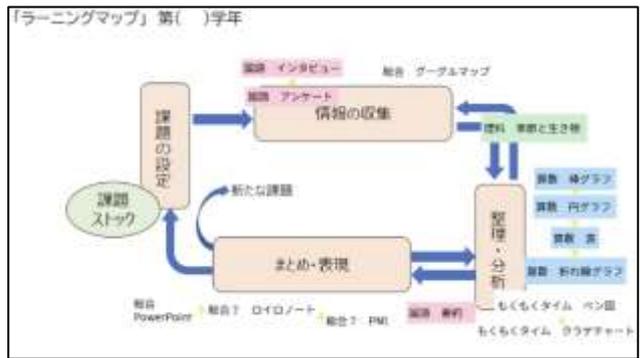


図5 C児のラーニングマップ

5年生は、6年生の「まとめ・表現」の姿を発表会という機会を通して学んでいる。参考になったこととして図6のように述べている。このことは、抽出児に限らず、先に述べた①～⑧の変容にも大きく影響を与えており、特に【方略的能力】への実感が多かったことにも関係していると考えられる。

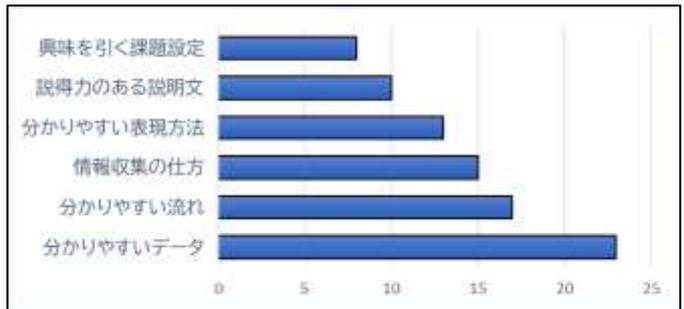


図6 6年生の発表で参考になった点

2 「情報の収集」「整理・分析」の場面における抽出児の様子

A児は、「整理・分析」において思考ツールを使い、どのようなことが共通していて、どのようなことが違うのかを調べ、集めた情報の中にいらぬ情報などがあつたら、その情報を捨て、必要な情報を見つけたと述べている(図7)。思考ツールを用いる中で、教科等横断的な力を発揮していることが伺える。4年生の時にたくさんの情報を集めても整理することに難しさを感じていたことが、打開されている様子が分かる。



図7 A児の「整理・分析」

B児は、ラーニングマップに国語科で学んだ「メディアリテラシー」「情報が本当かどうかを見極める」という力を発揮したと記している。今回、情報を集める際に、アンケートやインタビューを取り入れている(図8)。実際に、自分が集めるデータによって研究を進めることで、確かな情報とすることができている。



図8 B児の「情報の収集」

C児は、説明の際にたくさんの文字を書いたことで分かりにくさがあったことを課題として4年生の時から感じていたが、写真やGoogleマップを使うことで文字数を減らすことができた(図9)。ラーニングマップにも理科で学んだ「季節と生き物」の学習が生きていたことを記しており、自分の生活圏内に生息している生き物の知識は、各教科の学びから得たものであることを実感している。



図9 C児の「情報の収集」

3 「まとめ・表現」の場面における抽出児の様子

A児は、難しい言葉では、4年生に伝わらないことを意識している。ラーニングマップにも「相手のことを考えながら」という文言がある。相手が理解しやすい言葉で伝えることが大切であることを理解し、実際に易しい言葉へ換えている(図10)。本人は、どうしたら相手に興味をもって聞いてくれるかを考えたと述べていた。

B児は、国語科の「見た目の印象」の学習や「要約」を生かしているとラーニングマップに記している。デザインアイデアを参考にしながら、図や写真を分かりやすくすることを大切にたと述べている。色遣いや自体にもこだわっていることが分かる(図11)。各教科の学びをつなげることで本人の困り感の解決へ結びついている。

C児は、国語科での「要約」が生かされているとラーニングマップに記している。4年生に説明する際も、言葉で補いながら伝えることで、分かってもらえたことを述べていた。成果物では、全体的に写真や図を多くしている。必要最低限の文字情報に絞ることができていることが分かる(図12)。

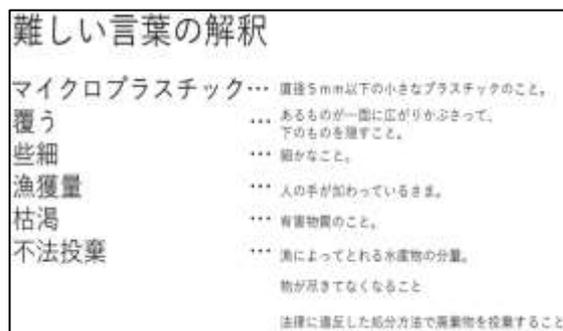


図10 A児の「まとめ・表現」



図11 B児の「まとめ・表現」

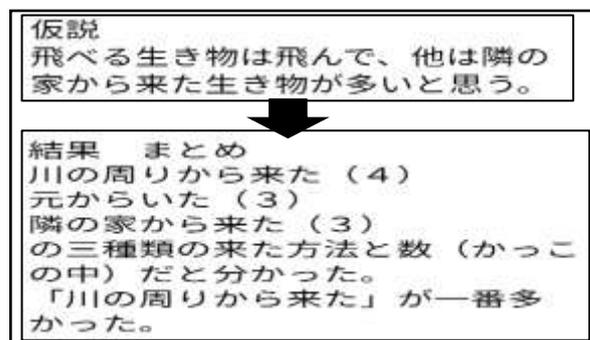


図12 C児の「まとめ・表現」

III 実践の整理

先に述べた①～⑧の変容が本年度の取り組み、特にラーニングマップに焦点を当て抽出児3名の様子と共に述べてきた。ここで全体の変容を客観的に見るためのひとつの指標として、5年生の「まとめ・表現」の成果である発表を受けた自由記述による4年生のアンケート結果を示す(図13)。参考になった点として、「分かりやすい図や写真があった」「自分達にもわかる言葉で説明をしてくれたおかげで分かりやすかった」というような回答が多くあった。これらの回答は、①～⑧の変容と関連している要素が多くあると言える。

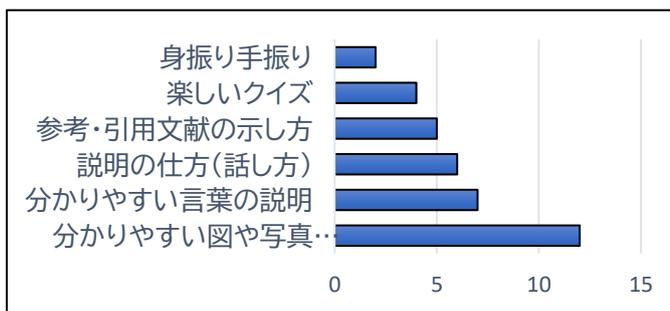


図13 参考になった点(4年1組 34名)

以下に、本実践を通しての成果と今後の展望を示す。

1 実践の成果

- ・ ラーニングマップに記録しながら、探究的に学ぶことで、各教科とのつながりが明確になった。
- ・ 4年生にも伝わる発表ができ、アカデミックライティングの指導の効果が表れている。

2 今後の展望

- ・ 「資質・・・能力デザイン」と個人研究での姿を関連付けた指導と評価の在り方を探る。